社団法人 日本アルゼンチン協会

Argentina

アルヘンティーナ

No. 56

アルゼンチン建国200周年記念号

プエルト・マデロ地区　ブエノスアイレス

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報　　2010年7月

建国200周年のアルゼンチン 1
「二世より三世のほうが日本に熱心です」
～一色田　眸さんとの一時間～ 3
アルゼンチン建国（革命）200周年
記念パレード 4
アルゼンチン日本文学祭2010 6
日本・アルゼンチン　ミニ交流史 7
少数与党となったフェルナンデス政権
～アルゼンチン政治経済短信～ 9
Resumen en castellano 11
協会の活動案内
アルゼンチン祭――日比谷公園 12
アマチュア・サッカー 日亜友好親善試合 12
第15回（200周年記念特別）
「タンゴ音楽の集い」 12
アルゼンチン建国200周年記念事業／
イベントについて 12
協会の活動報告
～5月18日　筑波大学
「アルゼンチン・デイ」 13
～5月19日　第54回通常総会、懇親会 13
～5月25日　200周年記念レセプション 14
～5月26日　ガラ・ナイト 14
～6月4日　長田小学校
「アルゼンチンの日のつどい」 14
～6月18日 第14回「タンゴ音楽の集い」 15
海外公演のご案内 15

建国200周年のアルゼンチン

中曽根　悟郎

今年は、アルゼンチンで16世紀以来230年に亘るスペインの植民地支配からの脱却・独立を求める運動が始まった1810年から数えて200年となる。この運動がマヌエル・ベルグラーノの指揮した『5月25日革命』としてアルゼンチンの新時代を切り拓き、6年後の1816年7月9日の正式な独立宣言に至った経緯がある。ここに「独立」と「建国」を言い分ける由来がある。アルゼンチン政府は一昨年より『5月革命200周年』記念事業の企画立案に着手し、特に内外の関心を集めたのが「債務削減及び安定性のための200周年基

金」の創設であった。これは、昨年末緊急大統領令による異例の措置として打ち出され、中央銀行の管理する外貨準備から66億ドルを中央政府直轄の国庫に移管し「2001年の対外債務不履行」の国際的汚名を払拭するため遅れている借金返済を実行する姿勢を世界に示すと同時に、この基金により余裕の生ずる国家財政資金を国内経済の更なる安定化に振向けるという一石二鳥の名案であった。しかるところ、レドラド中央銀行総裁は外貨準備金の国庫移管は法令違反であるとして拒否を表明、大統領と正面から対立。ここに、200周年の年頭から正月夏休み返上の一大政治闘争の開幕となった。

筆者は、毎年この時期アルゼンチンに長期滞在し日本の冬の寒さから逃避するのであるが、今年の首都ブエノス・アイレスの夏は殊更に暑かった。

1月中旬、クリスティーナ・フェルナンデス大統領は以前より準備されていたアルゼンチン外交上の最重要国の一つたる中国への公式訪問を突如ドタキャン。その理由として前記基金問題の混乱に乗じて副大統領一派が大統領の外遊中にクーデターをたくらんでいると、テレビを通じて公言。かかる政治的過熱を反映するかのように、ブエノスでは連日体感気温が40度を超え、2時間に88ミリもの豪雨が週3回も襲来、首都は洪水、停電、交通麻痺に陥る惨状。加えて同市民の主食たる食肉が一挙に50%も値上る狂乱物価の様相。クリスティーナ大統領、又もテレビで牛肉の代わりに豚肉を食べなさいと国民にアピール。

筆者は、丁度50年前、駆出しの若手外交官としてアルゼンチンに在勤、「5月革命150周年」祭典で多忙を極めた記憶がある。国家社会主義的大衆政治で第二次大戦直後に世界的に有名となったペロン大統領が、軍事クーデターで国外追放された後で、当時のフロンディシ大統領は「新生アルゼンチン」を世界にアピールすべく150周年式典には各国のトップレベルの賓客を招待した。日本からは星島二郎衆議院議長が、世界で最も遠い空路をプロペラ機ではるばる訪亜された。議長は高齢にも拘わらずお元気であったが、随行の外務省通訳官は長旅の疲れで口が廻らず、筆者が代行させられるハプニングもあった。当時の日・亜関係のわが外交上の重みは今日と比較できぬ程大きく、岸総理、湯川ノーベル賞教授始め多くの要人が訪亜したものである。「150周年」のお祭りの陰で全世界をアット驚かせる大事件もあった。それは、特別仕立ての軍用機で大代表団を派遣したイスラエル政府が、第二次大戦中のユダヤ人大量虐殺の最高責任者の一人で戦後十数年間アルゼンチンに逃亡潜伏中のアイヒマンを密かに拉致、この政府大代表団の特別機でイスラエルに連行したという事件であった。勿論、世界中がイスラエルに反発したものである。

最近のアルゼンチンのマスメディアには100年前の過去と200周年の現在を比較しつ、えも言われぬ郷愁と失望に溢れた論調が目立つ。100周年の1910年当時、アルゼンチンは南米の雄であると同時に世界の最先進国の一つであり、首都は「南米のパリ」ともてはやされ、オペラ劇場コロンの開設はパリのオペラ座、ミラノのスカラ座と並び「世界三大オペラ劇場」の格式を誇った。一般勤労者の給与水準はヨーロッパを上回り、年間100万人近いヨーロッパ人を出稼ぎ移民として受け入れていた。正に、アルゼンチンは『未来と希望と進歩と近代性』を代表する世界的チャンピオンであった。(La Nacion 紙) これに比べて2010年現在のアルゼンチンや如何。南米地域間では嘗ての弟分たるブラジルが南米の雄、世界の新しいホープとしてアルゼンチンを追い抜いてしまった。それでも、アルゼンチンは世界の金融大国20ヶ国で構成されるG20会議のメンバーであるものの、2001年以来未解決の対外債務不履行問題のため陰の薄い存在である。アメリカのオバマ大統領もクリントン国務長官も南米諸国歴訪の日程からアルゼンチンを除外するという「Argentine passing」にアルゼンチン国世論は挫折感を味わった。(注：本年2月末のチリ大地震の結果、クリントン長官は急遽アルゼンチンに立ち寄った。)

建国200周年を迎え、今後アルゼンチンは何処へ行くのか？現状は決して楽観を許さない。10年程前、「日本がアルゼンチン・タンゴを踊る日」というカナダ人ジャーナリストの書いた本が注目されたことがある。即ち、日本も決して好ましい状況になくアルゼンチンの二の舞となり兼ねないという論旨であった。今や、アルゼンチンも日本も「偉大なる再生」に向けて国を挙げての自覚と努力が求められている。日本政府も招請に応じて200周年式典への政府代表の派遣を検討したが、国内政情の緊迫（5月末）のため断念を余儀なくされた。記念すべき5月25日にはブエノス・アイレスの都心「5月広場」に国内各州からフォルクローレ楽団と踊り子が招集され、一大政治デモンストレーションが展開されると伝えられる。嘗て、ブエノス・アイレスでは5月25日を節目として貴婦人たちが毛皮のコートに衣替えの習わしがあった。200周年の宴の後で、アルゼンチンは来るべき冬の寒さに屈せず、依然中南米随一の高い文化教育水準にある人的資源と食料・エネルギーを始めとする世界有数の資源大国の地位を活用しつつ、100年前の世界的栄光の回復を確信して前進されんことを祈念する次第である。

（なかそね　ごろう：元駐パラグアイ大使）

「二世より三世のほうが日本に熱心です」

～一色田（いしきだ）　眸（ひとみ）さんとの一時間～

河﨑　勳

―花栽培のかたがたはお元気ですか？

「今は、切り花がヨーロッパから毎日大量に航空便で入ってきます。それに、アルゼンチンの人たちが造花を愛用するようになりました。生けた花かと見違えるまでに精巧になっていて値段も安いですし。私は、鉢植えに切り替えました。鉢植えは需要があります」

「栽培用の土づくりもしています。ラプラタ川に上流の樹木の葉っぱが堆積して腐葉土になって埋まっています。無尽蔵です。これを浚い出して持って帰り工場で乾燥させて出荷します」

―環境浄化のお役にも立っていますね。ブエノスアイレス近郊以外に建設した移住地はどうなっていますか。

「北のミシオネスのガルアペー移住地は成長しています。植林が成功し、ほかにミカンやモモを作っている人もいます。アンデスの麓のメンドーサの移住地は、結局土の塩害を克服できなくて移住者たちが出てしまい、放ったらかしになりました」

―アルゼンチンへ新しい移住者はくるのですか。

「日本から移住してくる人はありません。移住者の増えているのは、中国人と韓国人です。ブエノスアイレス市内のベルグラーノ住宅地には賑やかな中華街ができています。中国人は、市内各所で小規模なスーパーマーケットを経営しています。中国食材だけではなく、普通の商品を並べてアルゼンチン市民を相手に商売しています」

「日本人と違って中国人は、アルゼンチンに永住する気はないようです。彼らの目指す先はカナダです。中国籍のままではカナダへ移住できないので、アルゼンチンで国籍を取り、アルゼンチン人としてカナダへ渡るのです」

「日系人は子孫が増えてアルゼンチン全土で5万人ぐらいになりました。二世・三世の弁護士・医師はもう多勢になりました。政治の分野では、北のチャコ州で日系の国会議員が一人出ているだけです。日系人は政治の世界にはほとんど進出していません」

「アルゼンチン社会で人に伍して行くために子供の教育が必要なことは親がよく承知しています。国立大学は授業料が無料ですから、何とかして国立大学へ入れようとしています。卒業年限がありませんから、何年在籍してもよいのです。働いて資金を貯めてまた大学へというやり方で年数をかけて卒業します。私の家内は二世ですが、20年かけて大学を卒業して50歳で医師免許を取りました」

一色田　眸（いしきだ　ひとみ）さん
三重県出身。1962年アルゼンチンに移住、園芸で成功。
元日系人連合会会長。日本人移住史編纂委員長。

―一世・二世・三世の世代の違いは？

「二世はたしかに、自分が日本人なのかアルゼンチン人なのかアイデンティティーに悩むことがありました。しかし、三世は最初から全くのアルゼンチン人です。アイデンティティーの悩みなぞありません。むしろ自分のバックにある日本のよいところを身につけたいという意欲は三世のほうが強いです。伝統を守るとか、柔らかい表現をするとか、ものの心を大切にするとか。私の娘は三世の世代で、今大阪に留学しているのですが、『日本てこんなによいところだったんだ』と、日本のあらゆるものを吸収するのに貪欲です」

一色田さんは、小柄で、園芸家にしてはあまり陽に焼けないタイプ。温厚な人柄。にこやかな話しぶりは、難しい日系連合会の会長を務め、長丁場の移住史編纂を陣頭指揮してきた人とは思えない。

―日本人移住史4巻は非常にレベルの高いものだと思います。

「長年の懸案でした。先輩たちが移住者の聞き取りを残してくれていました。日本人会の倉庫に眠っていたその記録がボロボロになりかかっていたので焦りました。みんなに手弁当でやってもらいました。8年かか

りました。土屋義彦元会長に資金集めで尽力して頂いて印刷に漕ぎつけました。日本アルゼンチン協会に日本国内のPRでお世話になり、日本の大学や研究機関がかなり買ってくれました」

「次のプロジェクトとして、身寄りのない日本人高齢者に寝るところとデイケアサービスの場所を提供するためのボランティア活動を進めています。沖縄県人連合会が中心になりブエノスアイレス市内の住宅地の中に40人ぐらいの高齢者やご夫婦に入ってもらえるアパートを作る計画です。

できれば日本からも資金援助をお願いしたいと今回訪日しました。引き続き努力します」

（かわさき　いさお：当協会理事）

アルゼンチン建国（革命）200周年記念パレード

米須　清文

1808年、ナポレオンのイベリア半島侵略によるスペイン国王の譲位と皇太子の虜囚が、当時スペイン領であった南米では大きな影響を及ぼし、1810年にベネズエラ、アルゼンチン、チリー、コロンビア、メキシコ等で、在位する副王（スペイン国王の代理人）に対する革命が相次ぎました。

当時Virreinato del Rio de la Plata（ラプラタ河周辺の副王州）の首都ブエノス・アイレスでは、住民が中心になり、王虜囚によるスペイン本土の政治的混乱を理由に、副王の権限を無効とし、初めて地元独自の民主政権を立ち上げたのが1810年5月25日のことです。ブエノス・アイレスを中心とする革命から独立まで、各地方議会との意見の調整や各リーダーとのコンセンサス取得に約6ヵ年掛かりましたが、遂に1916年7月9日、ツクマン市の市議会にて独立を宣言し、現在のアルゼンチン共和国が誕生しました。

アルゼンチンと日本は地理的に地球の対極に位置した最も遠い国です。それにも関わらず大海を乗り越え、最初の日本人が当地へ到着したのは1886年のことです。それは、アルゼンチンが独立国として誕生してから、わずか70数年後のことでした。また、日亜両国は1898年2月3日の「友好・貿易・航海条約」締結、その後1901年の議会での条約批准に基づき、19世紀末には両国の国交が成立、以降、両国は最も密接な友好関係を維持してきています。亜国に於いて日本人移民は温かく迎えられると同時に、移民120年以上の歴史の過程を経て現在ではアルゼンチン市民に日本の文化、芸術が広く普及しています。

2008年前半連邦政府は、幅広い国内コンセンサスを目指した「建国200周年国家マスタープラン」作りに意欲を示しました。その後の農業団体との摩擦、与野党間の対立、与党勢力低下により、国家マスタープラン構想は中断されましたが、本年5月には花火の打ち上げを含む革命記念祝典が国内各地で盛大に行われました。首都ブエノス・アイレスに於いては、政治面での対立や財政面での問題を直面している中、連邦政府主催の祝典が5月21日～25日の間開催され、7月9日大通り（Avenida 9 de Julio）のベルグラーノ通からオベリスコまでの8ブロック（約1,000m）を会場とした、アルゼンチン最大の式典となりました。5日間に渡り、クラッシク・ミュージク、タンゴ、フォルクローレ、ロック・コンサート、軍・各州の住民や移民コミュニテイーのパレード、見本市等が相次いで行われ、各日100万人、最終日の25日にはアルゼンチン歴史上最大規模200万人を超える国民が大通りを埋め尽くし、国内の政治的対立や施政方針の相違を超越した、住民参加による奇跡とも言える大集会でありました。23日夜、嵐によりプログラムが一部中止となったものの幸いにして事故

5月23日、7月9日大通りを行進する主催者代表

5月16日、5月大通りでの日本舞踊グループ（大東京音頭）

5月16日、5月大通りでの琉球舞踊グループ（ぬち花）

5月16日、5月大通りでの組太鼓

も無く、祝典は無事終了と言えましょう。

在アルゼンチン日本人社会に於いては、在亜日系団体連合会（FANA）、在亜教育連合会（教連）、在亜沖縄県人連合会（沖連）の3団体が中心となり、昨年7月に実行委員会を立ち上げ、企画・募金活動と事前準備に邁進。1998年の日亜修好100周年と2008年の沖縄県人移民100周年祭典の際には、琉球舞踊（ぬち花）・沖縄のエイサー太鼓・空手等を中心としたパレードを行いましたが、今回は教育連合会加盟日本語学校の「よさこいソウラン節」と日本舞踊「大東京音頭、桜音頭」を付け加えることで委員会内が一致し、各芸能団体、日本語学校、各地日本人会での練習を開始する運びとなり、全日本人社会が大きな盛り上げを見せました。

約10ヶ月の準備期間を経て、革命200周年を記念するアルゼンチンに祝意と感謝を表する在アルゼンチン日本人移民社会個別パレードが、Avenida de Mayo（大統領府と国会議事堂を結ぶ5月大通り）で5月16日14時より、約2時間半にわたって繰り広げられ、1810年に革命が宣言された議会舎（Cabildo）前に設置されたボックス席には、ブエノス・アイレス市政府代表、在亜日本大使館よりは石田仁宏大使夫妻、山本毅公使夫妻、植松聡領事夫妻、野口京香JICA事務所長、日経団体連合会（FANA）より生垣彬会長、実行委員会の米須清文沖県連会長、松谷暁芸教連理事長、元FANA会長らの臨席を得ました。行進を始める前の式辞の主旨は以下の通りでした。

- 実行委員会を代表して、米須沖県連会長の挨拶。
  「昨年8月から準備を開始したが、諸日本人団体、芸能グループの統合と一致団結した行動と、また、日本人移民を温かく受け入れてくれたアルゼンチンの国とその国民に感謝の意を表することを目指しました。ブエノス・アイレス市、近郊、ロサリオ、コールドさらにブラジル、ペルーからの参加も含めて1千名を超える日本人コミュニテイーの舞踊、音楽、実演を楽しんでください」
- 来客の紹介後、日亜学院生徒による日亜両国国旗の旗手、両国国歌斉唱。
- 日本人社会（FANA）を代表して生垣会長の挨拶。
  「私どもがお世話になっているこの国の建国祭に参加できたことを大変喜んでいます。また、多大なる協力を頂いた日系人、アルゼンチン人へ感謝致します」
- 来客の石田大使の祝辞。
  「建国200周年の祝賀に参加出来ることを喜びとし、日系人のパワーが今後のアルゼンチン国民の幸せと発展に貢献出来ることを希望します」
- 最後にブエノス・アイレス市政府代表のアブルフ氏の挨拶。
  「アルゼンチンは移民・多民族のアイデンティティーのモザイクの組み合わせ」であることを強調すると同時に、「当国に住む日本人コミュニティーが建国200周年式典に積極的に参加してくれたことに感謝します」

式辞終了後のパレードでは、石田大使夫妻を先頭とする日本人団体の代表者が「アルゼンチンの5月革命おめでとう。在アルゼンチン日本人社会」と記した横断幕を手に進み、県人会グループ、市内・近郊日本人会・団体、諸日本語学校、沖縄県市町村人会グループがそれぞれ会旗、団旗、プラカードを掲げて行進。芸能の面では、まず組太鼓による、悪魔祓いと場を清める「獅子の踊」、めでたさを祝う沖縄踊り「かぎやで風節」、琉球国祭り太鼓による五穀豊穣を祈る「ミルクムナリ」に続いて、空手グループの型の演技、日本舞踊の「大東京音頭」、琉球舞踊の「ぬち花」、児童たちの「よさこいソーラン節」、組太鼓の実演で会場を盛り上げました。最後にサルミエント日本人会の歌と太鼓・日本舞踊グループによる手踊り「河内節音頭」、「ズンドコ節」には大使夫妻を初め、観客のアルゼンチン人も混じる賑やかな大詰めとなり、「アルゼンチン万歳、万歳、万歳」で5月大通りパレードの幕が閉じられました。本パレードに参加した団体数は87団体で内訳は、県人

会（18）、日本人団体（9）、沖縄県市町村人会（18）、教連加盟日本語学校（8）、空手（4）、組太鼓グループ（10）、エイサー太鼓（7）、日本舞踊グループ（9）、琉球舞踊グループ（4）でありました。

5月16日の5月大通りでのパレードの翌週（23日）、連邦政府主催の共同パレードが開催され、43各種移民コミュニテイーを代表する約8,000人参加のアイデンティティーのモザイクの様な大集会でした。日本人コミュニテイーはエイサー太鼓グループ、日舞グループ「大東京音頭と桜節音頭」の行進と組太鼓の演舞で7月9日大通りの会場を大いに盛り上げました。当日の曇天から雨を懸念する中での行進でしたが、何とか無事終了できました。

今回のアルゼンチン建国200周年記念祝典は、芸能団体、日本人団体の団結により、日本文化の紹介と日本人移民社会のプレゼンスをアルゼンチン国民に発信する素晴らしい機会でした。5月大通りでの日本人社会の単独パレードと7月9日大通りの連邦政府主催のパレードで、それぞれ2万人/50万人以上の観客を前にした行進でしたが、日本人コミュニテイーに対する観客の温かい拍手とBravo、Viva Japónには実に感動致しました。アルゼンチン国民より信頼され、尊敬される日本人社会を作り上げた諸先輩の努力の賜物と感謝致します。

（こめす　きよふみ：在亜沖縄県人連合会会長）

アルゼンチン日本文学祭2010
(FESTIVAL DE ARTE JAPONES)
—アルゼンチン建国200年記念

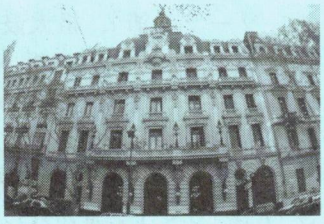
加藤　勝巳

アルゼンチン建国200周年を記念して、アルゼンチン日本文学祭が4月30日から5月16日まで、ブエノスアイレスの文化省「文化の家（CASA DE LA CULTURA）」で開催されました。この催しは、日本から376点の短歌、俳句、川柳と、アルゼンチン人によるスペイン語「HAIKU」25点が展示されました。アートコミュニケーション（本社東京）が主催し、在アルゼンチン日本大使館/ブエノスアイレス市政府などの後援、現地文化人、アルゼンチン日系社会、及び日本文化愛好家の指示、支援により実現。

ブエノスアイレス市の文化スローガン「詩のない街は、街じゃない」を象徴する国の歴史文化記念建造物に指定されている「文化の家」でされました。この建物は、パリのオペラ座を設計したフランスのシャルル・ガルニエの作で、1898年に建設されたもの。

優美な姿の「文化の家」の住所は、「五月大通り575番地」、五・七・五（俳句）と日本との因縁も感じずにはいられません。

オープニング式典、テープカット

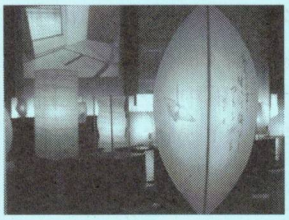

優美な姿「文化の家」

4月29日の市文化省1階でオープニングセレモニーが行われ、沖縄の夢海渡（むかいと）太鼓演舞団の大太鼓が鳴り響き、厳粛な雰囲気の中、ホセフイーナ・デルガド文化副大臣の歓迎のスピーチ、在亜日本大使館山元　毅公使のスピーチに続き、主催者大橋健一郎催事運営事務局長の挨拶がありました。

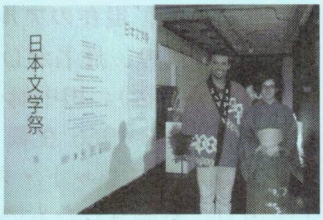
当協会は、この開催式に際して、木島輝夫理事長、横山　稔監事連名で祝辞を送り、開催式で披露されました。

かって無い新鮮な内容のイベントは、各種メデイアの注目を浴び、ラジオ、テレビ、新聞、雑誌並びに写真家、ジャーナリストの取材と紹介は、毎日のように続きました。

ホセフイーナ・デルガド副大臣は、子供の頃から、日本についての童話を読み、日本女性がどんなに優美なのか想像してやまず、またブエノスアイレス大学文学部学生当時は、アルゼンチン文学研究のかたわら、日本文学にも傾倒し、特に日本映画は殆どと云っていいほど見ましたし、今読んでいる本は川端康成の「古都」であることを披露され、憧れの日本が、すばらしい展示を「文化の家」で開催されることとなり、同氏の夢がかなった思いであること。また、この4月29日は、日本では輝く平和の日（昭和の日）と聞き、この記念すべき日に、当地でビセンテナリオ（200年祭）に参加するこの日本文学祭に対し、歓迎と成功をお祈りする祝辞を述べられました。



会場内、灯籠と詩歌



日本文学祭受付

山元　毅公使は、ご赴任されて2年、アルゼンチンと日本は、地理的条件の違いなど、大変対照的なことが多い条件下で、両国は、独自の社会経済構造を発展させ、各々国民は違った社会に生まれ育っているにも拘わらず、非常に似通った文化趣味があること。例えば、昨年タンゴ世界選手権で日本人カップルが優勝、いろいろな世代の日本人が毎年タンゴを学びに来亜していること、日本は世界でもアルゼンチンに次いでタンゴファンが多いことに言及され、日本人は、タンゴの情熱的リズム、悲しいところ、魂の深いところに魅了されずにはいられないこと。一方アルゼンチンでは、日本レストランは寿司や刺身を賞味するアルゼンチン人で毎晩一杯であり、若者には日本発の漫画とアニメが大人気であること、このような大衆文化は非常に目立ちますが、日本人が持つ繊細さと美しさを表現する伝統的文化をアルゼンチンに伝達することも可能であること。この文学祭が受け入れられることによって、アルゼンチンと日本が芸術に関して同じ叙情を持つと証明出来るでしょう。

この文学祭が私たちの国の絆を更に深めることに役立ち、文化の懸け橋となることを念願する、祝辞をのべられました。

本稿は、現在ブエノスアイレスで活躍されている相川知子氏（あいかわ　ともこ：広島市出身、1991年からブエノスアイレスで日本語教師。通訳、翻訳、テレビ撮影コーデイネーター等に活躍中。日本に向けてアルゼンチン、ラテンアメリカ情報の発信もやっている。）から、当協会からの祝電に対する御礼方々ご報告頂きました情報資料を基にまとめたもので、今回の掲載に対し、同氏のご了解を得ております。

尚、現地の種々興味ある事柄が紹介されている同氏のブログ（http://blog.livedor.jp/tomokoar/）を紹介します。

（かとう　かつみ：当協会常務理事）

「日本・アルゼンチンミニ交流史」

—アルゼンチン建国200年記念

寺本　安久

1.　競馬ミニ交流史—『アルゼンチン共和国杯』について

「アルゼンチン共和国杯」は、今年2010年11月7日、第48回目を迎えます。アルゼンチンとJRA（日本中央競馬会）は、ほぼ半世紀という長いお付き合いをしていることになりますが、この交流の長さは、他国と比較してもトップに位置づけられると思います。1962年4月、ブエノスアイレス・ジョッキー・クラブとサラブレッド生産者協同組合からアルゼンチンの競馬関係の貴重な書籍・雑誌が多数JRAに寄贈されるとともに、さらにまた、りっぱな賞杯が贈られることになりました。これをきっかけに、両国の親善関係を一層深めることを目的とした「アルゼンチン・ジョッキー・クラブ・カップ」が1963年に創設されました。

第1回目は、1963年5月19日に施行されています。（現在の「アルゼンチン共和国杯」という名前は、1975年からつけられています。正式には、「アルゼンチン共和国社会福祉省杯」。公式の外国語表記は、Copa Republica ArgentinaでJRAの重賞レースでは、唯一のスペイン語となっています）

1988年には、「日本・アルゼンチン修好100周年記念」と副題が付いています。今年は、まちがいなく、「亜国建国200周年記念」との副題が付くことでしょう。

「アルゼンチン共和国杯」は、レース格付けがGIIのハンデイキャップレースで、芝2500メートルで行なわれます。2009年より、外国調教馬の出走枠が9頭に拡大されました。アルゼンチン産馬が、このレースに出走すれば、もっと楽しめるのではないかと思われます。実は、可能性のある馬が1頭います。1996年、アルゼンチン生産馬第一号アルゼンチンスター（牝馬）が、1999年1勝を挙げ、引退後、日本で繁殖用馬となり、現在5頭の仔馬を生んでいます。4番目の仔馬が、現在3歳の「ペルーサ」号。5月30日の東京競馬場で行なわれた日本ダービーに出場し、残念ながら6着でしたが、将来性を高く評価されています。この「ペルーサ」号が「アルゼンチン共和国杯」に出場し、もしも勝利するとしたら、なにか歴史的な大きなつながりを感じてしまうのですが。なにしろ「ペルーサ」とは、スペイン語でPelusa。綿毛・布地の毛などの意味で、転じて、もじゃもじゃ頭や、毛むくじゃらな人を指し、皆さんご存知のあのサッカー界スーパースター、現アルゼンチン監督、マラドーナの愛称でもあります。皆で応援するしかないでしょう！！

2. キンケーラ・マルテインについて

彼は、孤児福祉施設に捨て子として届けられた為、正確な生年月日は、不明ですが、1890年3月1日と想定されています。洗礼名が、Benito Juan Martin。8年後の1897年11月16日Mannel Chinchelaの養子となりました。Chinchelaは、イタリア出身で、Quinquelaと発音する為、29歳頃から、Benito Quinquela Martinを名乗るようになりました。20歳のときに結核にかかり、コルドバで療養中に、近くの「村」をあちこち見物。その時、彼の絵の思いが固まり、「自分の村—LA BOCA」を生涯、描き続けることになりました。彼のその思いを表現した文章を以下にご紹介します。

La Boca es mi taller, mi refugio y mi modelo.
Todo lo que hice y todo lo que consegui es um premio a la fidelidad.
En mi vida y en mi arte permaneci siempre fiel a mi gente, a mi puerto y a mi barrio.

（仮訳；ボカは、私にとって、仕事場であり、心の支えであり、原点なのです。
私がやってきたこと、成し遂げてきたことの全てが、この忠誠心（ボカに対する）に対するご褒美だと思っています。私の人生、そしてアートの中には、ボカの人々、港、街に対する自分のこの思いが詰まっています。）

彼は、ボカで生まれ、ボカで育ち、ボカの風景、特に港で働く労働者の姿や港風景を描き続けました。ボカの町の人々のために、小学校、病院、乳児院、美術館や劇場を建設しました。たくさんの壁画を製作し、学校、海軍省、バスターミナルなどに寄贈もしています。そのなかで、彼の友人でタンゴ作曲家であるフィリベルトの傑作「カミニート」を永遠に人々の心の中に残すために、1956年、カミニート通り〔小公園〕を作ったのは有名です。フロンデッシ大統領にフィリベルト・カナロと一緒にタンゴ再生を訴え、大統領から「タンゴは、アルゼンチンの魂だから、なんとかしましょう」との言質を得たとのエピソードがありますが、これは、タンゴ以上にボカ思いから出た彼の行動であったろうと想像できます。1977年 86歳の人生を全うした彼は、生涯独身を貫いたと思われていましたが、1974年 彼が亡くなる3年前に結婚されていたとの事です。

日本には、日亜の交流の証として、彼の作品が2つあります。一つは、アルゼンチン巡洋艦ラ・アルヘンテイナ号（艦長　アベラルド・パンチン大佐）が紀元2600年奉祝と日亜親善の使命を帯びて昭和15年6月20日横浜に入港した際、海軍に寄贈されたものです。絵の題名は、「ラ・ボーカ」で、総理官邸に飾られています。

もう一枚は、現在のアルゼンチン大使館公邸の3階に飾られており、題名がDia de Sol en la Boca（晴れた日のボカ地区）。田中篤子さん（田中　三男 元駐亜日本大使 1963-1966 在職—の奥様）がアルゼンチン大使館、アルフレッド・キヤラデイア大使に2000年9月29日に寄贈されたものです。

晴れた日のボカ地区—
キンケーラ・マルテイン；在日アルゼンチン大使館所蔵

3. 日露戦争ミニ秘話
（日進・春日購入短期決着 裏話）

日本海会戦でバルチック艦隊を全滅させ、日露戦争の勝利を確実にした理由のひとつにアルゼンチンからモレノ（のちの「日進」）、リバダビア（のちの「春日」）の軍艦を短時間交渉の後、即購入出来たことがあります。

1903年12月20日、外務大臣小村寿太郎から正式交渉の命を受けてから、12月27日、2隻の代金 約15百万円をロンドンの口座に支払い日本のものになりました。わずか8日間のスピード決着でした。それも日本とアルゼンチン国とは、まだ、外交使節の交換がなされていない時代のことでした。

この短期決着の背景には、1902年に結んだ「日英同盟」の存在と、戦争中ですので敵味方をはっきり仕分けする環境下にあったわけですが、今では全く考えられないようなスピードでアルゼンチン国が対応してくれました。12月25日クリスマスの夜、ブラジル・リオデ・ジャネイロよりブエノスアイレスに到着した堀口九萬一　臨時代理公使を午前2時に、ルイス・ドラゴ外務大臣が遠来の客として迎え入れ、26日の早朝には、フリオ・ロカ大統領・オノフレ・ベトウベデル海軍大臣と会談、同日午前中には、契約書に調印を終えました。実質的には、8日間ではなく、26日の午前2時から12時までの10時間のスピード決着と言えます。実は、このスピード決着には、表には見えない2つの友情が存在しています。一つは、ドラゴ外務大臣を上司にもつ、在ブラジル、アルゼンチン公使のゴロスチアガ氏と堀口公使が以前より親密な家族付き合いをしており、深い信頼関係を樹立していたことからドラゴ外務大臣には、事前説明を通じ十分理解を得ていたこ

と。もう一つは、ベトウベルデ海軍大臣は、1899年フリゲート艦サルミエント号で336名の乗員を乗せて横浜に到着。日本海軍に暖かく迎えられ、日本滞在中、明治天皇に拝謁しており、日本に対して強い関心と深い友愛精神を持っていたこと。日本の決死の覚悟・危機感とその裏にある暖かい友情がうかがえるかと思います。

それにしても現在の日本・アルゼンチン国の現状を考えると、当時の国家の行動には、大きなさわやかさを感じます。

次の機会に、「ミニ交流史—その2」として、タンゴのこと、茨城県境町立長田小学校のこと等に触れたいと考えています。

（てらもと　やすひさ：当協会理事）

少数与党となったフェルナンデス政権

—亜国政治経済短信—

荒尾　保一

1）中間選挙の結果

亜国連邦議会の中間選挙は、2009年12月に行われることが法定されていたが、フェルナンデス政権は、これを繰り上げ、6月28日に実施した。その理由は、選挙が遅くなるほど与党の支持率が低下し、選挙で不利になることを避けようとしたのではないかと憶測されていた。

しかし、選挙結果は、下院では、与党が親キルチネル派を含めても、114議席となり、野党の143議席を大きく下回ることとなった。また、上院でも、与党は35議席となり、過半数を下回ることとなった。

以上の経緯については、前回会報に記したとおりであるが、この6月の選挙結果に基づく新連邦議会が正式に発足したのは、12月10日であった。フェルナンデス政権は、これまで上下両院で圧倒的多数派であり、政府の意向に沿った法律を通過させることに何の困難もなかったが、今後少数与党という困難な条件の下での政権運営を行わざるを得ないこととなった。

2）経過期間中の国会運営

12月の新連邦議会の発足まで、選挙結果に拘わらず、与党が多数である期間（経過期間）が4ヵ月余もあるという異例の状態が生じた。

政府は、選挙結果を受け、各セクターとの対話を行うこととし、各般のレベルで話し合いが行われた。しかし、同時に、この経過期間を利用して、立法権限法案（輸出課徴金を政府が設定する権限を含む）を1年間延長する法案を可決した。

なかでも、政治改革法案は、政党創設の要件、予備選挙の実施義務、国政選挙への出馬制限などを定めた重要法案であるが、下院で50以上の修正が加えられつつも、可決・成立した。

また、マスメディアを規制する放送法案が成立したが、これに対し、亜国最大のマスコミ グループ クラリンが、この法律は憲法に違反するとして、連邦民事商業裁判所に提訴し、複数の判事が同法の施行の一時停止を命じる仮処分を行なわれるなど、マスコミと政府の対立が続いている。

3）新連邦議会の発足

2009年12月10日、上院の3分の1（24名）、下院の2分の1（127名）の新議員が就任し、新連邦議会が発足した。下院では、議長はキルチネル派のフェルネル議員が再任されたが、副議長（複数）には、野党議員が選ばれ、また、常設委員会の委員長うち、与党は20、野党は25の委員長が選ばれた。フェルナンデス政権は、議会での多数を失った中で、さまざまな政治課題に取り組むこととなった。

この数ヶ月、社会保障の拡充を求める非キルチネル派のピケテーロ グループがブエノスアイレス市の各所で道路封鎖を行ってきた。他方、マクリ ブエノスアイレス市長の市政運営に反対するグループや、モジャーノ労働総同盟（CGT）書記長を支持するグループなどが、入り乱れて道路封鎖を行うという事態も生じた。

このような社会的緊張を憂慮するカトリック教会司教会議は、深い懸念を表明する教理文書を発表した。

4）債務削減基金の創設問題

社会問題の緊張に加え、亜国のもう一つの課題は、対外債務の支払問題であるが、フェルナンデス大統領は、昨年12月、中銀の保有する外貨準備66億ドルを用いて、「債務削減及び安定のための建国200周年基金」を創設するための緊急大統領令（DNU）を発出した。

これに対し、レドラド中銀総裁は、中銀の法制的位

置づけを根拠に、外貨準備の同基金への移管を拒否した。フェルナンデス大統領は、大統領令に背く中銀総裁の辞任を要請したが、これが拒否されたため、緊急大統領令を発し、レドラド総裁を解任した。

この問題は、中銀総裁の進退については、議会の助言が必要であるとする中銀法に違反するとして、裁判所に提訴され、行政高等裁判所がこれを認めるという騒ぎになった。

その後、議会に本件を審議する両院特別委員会が設置され、同委員会は、大統領の解任を支持する意見書が提出された。

このような状況の中で、レドラド総裁は、記者会見を開き、亜国の安定のため自ら辞任すると発表したが、フェルナンデス大統領はこれを認めず、上記両院特別委員会の意見書の提出を受け、レドラド総裁を解任する大統領令を追認した。中銀総裁には、マルコ デルポント ナシオン銀行総裁が任命された。

3月に入り、フェルナンデス大統領は、200周年基金創設のための緊急大統領令を廃止し、新たに、①約22億ドルを上限に外貨準備を用いて今年度に期限が到来する債務の国際金融機関への返済を行うとともに、②約44億ドルを上限に外貨準備を用いて今年度に期限が到来する民間債務の返済に充てるための「債務削減基金」を創設するという2つの緊急大統領令を出した。

これに対し、議会では、この緊急大統領令は無効であるとの意見書が採択された。しかし、政府側から、その意見書の有効性について争う提訴がなされ、上記大統領令の一時停止を認める下級審の判決が出された。一方。この下級審の決定を無効とする連邦高等裁判所の判決が出され、本件は司法を巻き込む争いとなった。

この間、中国を訪問する予定であったフェルナンデス大統領は、外遊中大統領職を代行するコボス副大統領への不信から、中国訪問を突如取り消すという騒ぎも生じた。

その後、上記2つの大統領令の是非について、両院で審議される予定であったが、議会の駆け引きで、審議のための委員会の定足数を充たせず、会議が開けないという事態が続いた。

5月に入り、債務削減基金の創設を定める緊急大統領令と同様の内容の法律案が上院で採択され、下院の審議を待っている状態である。

5） タイアナ外相が辞任

今年1月、FEALAC及び日亜経済合同委員会に出席のため来日したタイアナ外相が6月18日突如辞任し、後任に駐米国大使エクトール ティルマン氏が任命されることとなった。

タイアナ前外相は、フェルナンデス大統領との間に、外交問題の処理にあたって、かねてから意見の不一致があったとされるが、最近大統領との電話会談で、大統領が前外相を不誠実であると述べたことから、タイアナ前外相が大統領に書簡を送り、辞任を申し入れたものである。

最近の顕著な不一致の例としては、ボタニア パルプ工場に関するウルグアイとの紛争について、工場監視の方法をブラジルとともに受け入れようとの外相意見を大統領が拒否したことがあげられる。

また、議会が前駐ヴェネズエラ大使エドワルド サドウス氏に対し、同国へのアルゼンチンからの輸出に絡む賄賂の問題について外交委員会への出席を求めた件に対し、タイアナ前外相はこれを認めようとしたが、大統領が前外相を非難したことも一つの理由とされている。

6） ホールド アウト債のスワップ

2001年に債務不履行となり、2005年に元利の大幅カットを行ったうえでその支払いを行うとの措置がとられたが、これに応じなかった債務（ホールド アウト債）は、200億ドルに達すると見られているが、これにについて、ブドウ経済相は、4月、額面の33,7%を新国債と交換する計画を発表し、各国にその届けがなされた。わが国に対しても、関東財務局に対し、債務交換に関する訂正有価証券届出書が提出された。

この計画に従い、各国においてスワップが進行中であり、6月22日の最終期限までに残存債券保有者の60%近くがスワップに応ずるものと見込まれている。

7） 経済情勢

2009年の亜国の経済成長率は、マイナス0,2%であったと見られている。2001年に入り、回復の傾向が顕著となり、2001年1月の経済活動指数は、前年同月比2,2%の増となり、3月には、この指数が8,1%に達しており、景気低迷の底を打った感が強い。

民間の経済研究機関は、5月の亜国経済は、年率換算9,7%のプラスであり、1月～5月の累積成長率は、6,5%に達しているとの報告を出している。

特に自動車産業は、30~40%の伸びを示しており、経済回復の起動力となっている。

常に問題となる消費者物価指数は、INDECの発表では、5月には前年同月比10,7%となっているが、実態はこれを大きく上回っているのではないかと見られている。

財政収支は、堅調な税収に支えられ、プライマリーバランスは黒字幅を拡大している。しかし、総合収支は、利払いの増加により、赤字となっている。

貿易収支は黒字であるが、最近は、輸入の増加により、黒字幅は減少を示している。

なお、2005年第3四半期末の外貨債務残高は、1,417億ドルとなっている。

（あらお　やすいち：当協会常務理事）

Resumen en castellano

por Irene Gashu

El bicentenario de Argentina (p. 1)

por Goro Nakasone

El año del bicentenario comenzó con un desacuerdo entre el gobierno y el director del Banco Central. La presidenta Cristina Fernández canceló su viaje a China. Justo hace 50 años, residí en Buenos Aires en mi calidad de joven diplomático. Hace un siglo, Argentina era uno de los países más avanzados del mundo. Mi deseo es que Argentina recupere la posición que ocupó hace 100 años.

Una hora con Hitomi Ishikida (p. 3)

por Isao Kawasaki

Me dedico a la producción de flores en macetas y tierra para cultivos. Ya no vienen inmigrantes de Japón. Hay alrededor de 50.000 descendientes de japoneses o nikkei en Argentina. Los "sansei" están más interesados en aprender sobre Japón que los "nisei". Tardamos 8 años en completar el libro sobre la historia de la inmigración japonesa en la Argentina. Mi próximo proyecto es la construcción en Bs. As. de un hogar para japoneses ancianos.

Desfile por el bicentenario (p. 4)

por Kiyofumi Komesu

Durante 5 días, se realizaron en la Avenida 9 de julio de Bs. As. , conciertos y desfiles en festejo del bicentenario. El 16 de mayo, 87 grupos de japoneses o descendientes de japoneses desfilaron durante 2 horas por la Avenida de Mayo hasta el Cabildo. Fue una excelente oportunidad para dar a conocer la cultura japonesa a los argentinos.

Festival de arte japonés 2010 (p. 6)

por Katsumi Kato

Para celebrar el bicentenario, del 30 de abril al 16 de mayo, en la Casa de la Cultura de Bs. As. se exhibieron 376 poemas desde Japón y 25 haiku escritos por argentinos en castellano. En la ceremonia de inauguración, hablaron la viceministra de cultura, Sra. Delgado, el ministro de la embajada de Japón, Sr. Yamamoto y el secretario general del comité organizador, Sr. Ohashi.

Mini-historia de las relaciones nipo-argentinas (p. 7)

por Yasuhisa Teramoto

1. En Japón, la carrera de caballos "Copa República Argentina" fue creada en 1963, hace casi medio siglo. Existe la posibilidad de que este año participe un caballo argentino. 2. El artista plástico Quinquela Martín dedicó su vida a pintar su barrio, La Boca. El 20 de junio de 1940, cuando el crucero acorazado La Argentina entró al puerto de Yokohama, la Armada japonesa recibió una pintura titulada, "La Boca". 3. Los trámites para ceder dos buques argentinos a Japón en 1902, se completaron en sólo 10 horas.

Ha pasado a ser el partido minoritario (p. 9)

por Yasuichi Arao

El 10 de diciembre de 2009, asumieron los nuevos senadores y diputados. El partido gobernante ha pasado a ser la minoría. Varios grupos han bloqueado caminos en señal de protesta. En marzo, la Presidenta Fernández dispuso por decreto usar reservas del Banco Central para pagar los vencimientos de la deuda pública de 2010. Martín Redrado fue reemplazado por Mercedes Marcó del Pont. En junio, renunció el Canciller Taiana. Se estima que el 60 % de los tenedores de bonos aceptarán la oferta de canje anunciada por el ministro de economía Boudou. Se calcula que el crecimiento económico del país en 2009 fue de menos 0,2 %.

協会の活動案内

1. 8月28日（土）10:00～20:00（予定）祝アルゼンチン建国200周年 —FIESTA ARGENTINA BICENTENARIO En el Parque Hibiya

アルゼンチン建国200周年を祝し、在日アルゼンチン大使館/建国200周年実行委員会主催、日本外務省/日本アルゼンチン協会/アルゼンチン音楽著作権協会後援で、日比谷公園噴水前及び音楽堂にて、アルゼンチン祭を開催します。テーマは、

アルゼンチン音楽と踊りに浸ろう
アルゼンチの食べ物、飲み物をエンジョイしよう
アルゼンチン物産品を探そう

で、出店参加企業、関係者の協力、協賛を頂き、アルゼンチン商品の展示、販売並びに音楽生演奏、タンゴダンス無料レッスン、ダンスショウ等内容豊富のフィエスタです。

皆様多数のお越しをお待ちします。

2. 10月11日（月、祝日）アマチュア・サッカー日亜友好親善試合

建国200周年記念イベントとして、在日アルゼンチン大使館と当協会が協賛で企画・実施します。

日時：2010年10月11日（月）
10:00～17:00頃までを予定
場所：千葉県 レナウン・オービック習志野グランド場（ジェフ千葉所有）
試合：年齢30歳以上のアマチュアでアルゼンチン人と日本人との対抗戦形式
子供、少年サッカーの対抗試合の実施も検討中。
趣旨：親善、交流が目的で、試合終了後に焼肉会（アサード）を行う。

詳細については、追ってお知らせいたします。

3. 10月16日（土）（予定）第15回（200周年記念スペシャル）「タンゴ音楽の集い」

アルゼンチン人のタンゴ関係者をも参加して、200周年記念に相応しい特別企画を検討中。ご期待ください。

4. アルゼンチン建国200周年記念事業／イベントについて

今後予定している主な行事は次の通り。

10月（日時未定）	サンマルテイン将軍胸像表敬献花式（場所；防衛大学校—横須賀）
11月（予定）	千葉大学に於いて巡回行事「アルゼンチン・デイ」
11月（予定）	第48回アルゼンチン共和国杯競馬（GⅡレース）（場所；府中競馬場）
12月（予定）	京都大学に於いて巡回行事「アルゼンチン・デイ」
12月（予定）	アルゼンチン写真コンクール（場所；東京新宿）

協会の活動報告

1. 5月18日 筑波大学で「アルゼンチン・デイ」

アルゼンチン建国200周年の記念行事の一つとして、筑波大学キャンパスで「アルゼンチン・デイ」が催された。大講堂での、セミナーでは、ポルスキ駐日大使及び当協会の飯塚理事が講演し、50名以上の学生が熱心に聴講された。その後、タンゴ・ダンス教室を開き、アルゼンチン人のタンゴの先生から、参加した100名以上の学生が直接指導を受けて、すぐにダンスが踊れるようになり大満足。最後には、先生が本場仕込みのタンゴを披露、拍手喝采で終了した。

2. 第54回通常総会

平成22年5月19日（水）、在日アルゼンチン大使館小講堂に於いて、午後4時からの平成22年度第1回理事会で、第54回通常総会の目的事項の8議案が満場異議なく、原案通り承認・可決された後、午後5時から第54回通常総会が開催された。

冒頭、友國会長よりこの会場を提供してくれたポルスキ駐日アルゼンチン大使に対する謝意表明があった。

正会員数は法人19社、個人正会員85名で議決権総数は104.これに対し、出席の正会員28名、委任状提出が34名、合わせて議決権を有する出席総数は62名で過半数を上回り、定足数を満たし、総会は、適法に成立していることを確認したのち、議案の審議に入った。第1回理事会で承認・可決された8議案が、それぞれの担当理事より説明があり、全ての議案が滞りなく承認・可決された。

故石川浩司理事逝去に伴い、当協会正会員の飯塚久夫氏が新理事として、また、法人会員㈱日立製作所久田眞佐男理事の人事異動による辞任に伴い、同社豊島幸雄氏が新理事として、本総会に於いて、承認・可決された。

なお、審議に先立って、友國会長は、昨年6月に逝去された故石川浩司理事の当協会への貢献に深甚なる謝意を表し、併せご冥福をお祈りする旨を述べた。

3. 懇親会

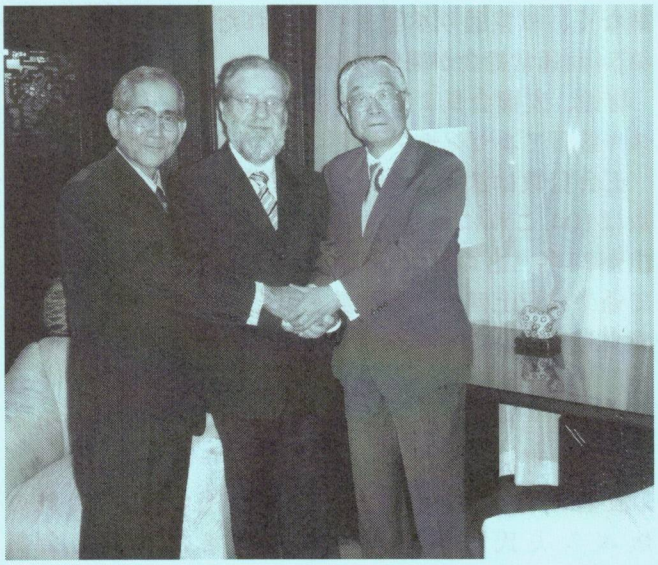
5月19日（水）、総会に続き、恒例の協会懇親レセプションが、ポルスキ大使のご厚意により、大使公邸で18:30から約2時間に亘り開催された。

ポルスキ大使の挨拶、友國会長の挨拶・乾杯音頭で始まり、京谷弘司タンゴ四重奏団のタンゴ演奏が場内を包むと、場内は盛り上がり、アルゼンチン料理とワインをエンジョイしての、時をわすれての懇談の宵となった。

今回は、たまたま来日中のウルグアイ出身タンゴ歌手、サライバさんの京谷クアルテットとのコラボ出演があり、また特別にお寿司を提供させて頂いた。

当日は、生憎と雨模様で、足もとすぐれぬにも拘わらず、150名を超える参加者となり、大盛況に会を納めることが出来ました。

開場準備に大変ご協力頂きましたアルゼンチン大使館関係者に心より感謝申し上げる次第です。



懇親会前、会長、副会長、大使にご挨拶

京谷クアルテットと

4. 5月25日、建国200周年記念レセプション

在日アルゼンチン大使館主催のアルゼンチン建国200周年記念レセプションが、アルゼンチンにとって建国記念日に当たる5月25日に、帝国ホテルで開催された。

大変大勢の参加者で開場を埋め尽くし、タンゴ音楽とダンスも観賞する盛況な催しとなった。当協会からも、友國会長、木島副会長兼理事長他役員が参加した。

5. 5月26日、建国200周年祝賀ガラ・ナイト

的場博子氏（アルゼンチン音楽著作権協会駐日代表、当協会理事）主催によるアルゼンチン建国200周年祝賀ガラ・ナイトが、ホテルオークラ東京、アスコットホールに於いて、5月26日（水）18:30から開催された。

明治37年（1904年）、日本が大国ロシアと戦った日露戦争に於いて、当時の最新鋭装甲巡洋艦“モレノ”“リバダビア”2隻をアルゼンチン海軍が日本海軍に譲ってくれたこと、（日本での命名は、“日進”“春日”で、日本勝利に大きく貢献）また、太平洋戦争終戦直後、アルゼンチン海軍のフリゲート艦2隻が、アルゼンチン産小麦を満載して横浜港に入港、食料不足時代の日本国民に寄贈してくれたこと。

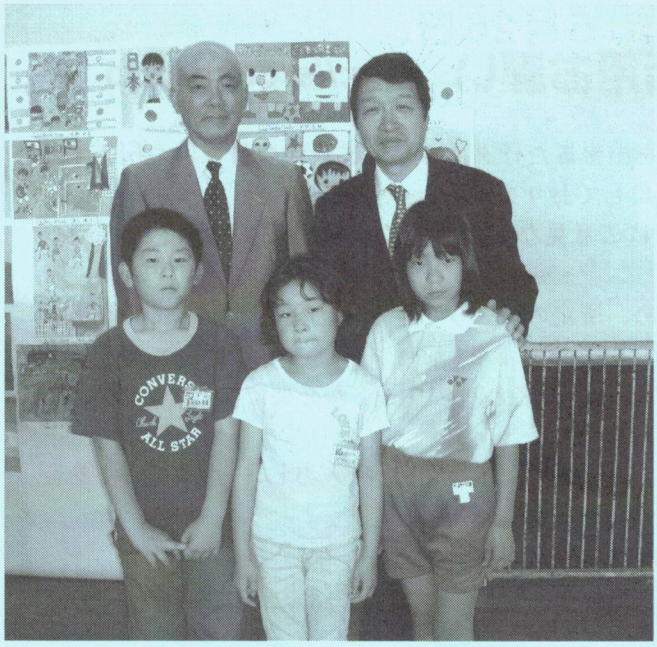
感謝と恩返しの気持ちを込め、アルゼンチン200周年を一人でも多くの友達、友人とお祝いするため、また、両国交流の場として更なる友情を深めることを祈念しての祝賀会。島津貴子氏ご夫妻を始め、ポルスキ大使ご夫妻他、多くの各方面からの方々が参加され、祝賀会は華やかに盛況に催された。

特に、的場氏プロデュース・スペシャル・タンゴショウでは、かのオルケスタ・テイピカ・東京楽団のバイオリニスト他団員が壇上に上がり、当時のオルケスタ・テイピカ演奏スタイルで、タンゴを演奏、開場は拍手に包まれ、ガラナイトを満喫した。

当協会から、友國会長、木島理事長他役員が参加した。

6. 6月4日 長田小学校（茨城県境町）「アルゼンチンの日のつどい」

6月4日（金）、恒例の第22回「アルゼンチンの日のつどい」が、77年に亘りアルゼンチンとの友好関係を大切にしている茨城県境町立長田小学校で開催された。



今年は、アルゼンチン建国200周年記念として、特別に児童絵画展を開催。

小学2～3年生を対象に、学校での図工の時間に、大使館から提供されたアルゼンチンの各種写真をモチーフに絵を描いてもらい、300点近い応募作品があった。

校長先生他学校関係者に30点を選んでもらい、この中からポルスキ大使が大使賞（金賞、銀賞、銅賞）3点が選ばれ、また、アルゼンチン協会賞（奨励賞）として3点を選出。それぞれ賞状、記念品が授与された。

教室の廊下、部屋に300点に及ぶ応募作品が飾られ、当日参加した、学校関係者、ポルスキ大使、ロドリゲス書記官他、境町長他町関係者が観賞。殆どの絵が、大使の横顔、サッカー、アルゼンチン国旗等見て感じたことを素直に画用紙に表現しており、特に殆どの絵の色合いが大変明るいことに感銘した次第。

行事は、講堂にて、生徒350人以上、父兄100名、長田町・学校関係者約100名が参加して行われた。児童生徒たちの明るさと元気一杯な様子は、大変素晴らしく、記憶に残った次第。

7. 6月18日
第14回「タンゴ音楽の集い」

飯塚久夫氏（日本タンゴアカデミー副会長、当協会理事）の解説トークとサウンド・映像で好評の当協会主催第14回「タンゴ音楽の集い」が、6月18日（金）18:30から、当協会事務所隣の光和ビル地下2階大ホールで開催された。

プログラムは、第1部―タンゴ黄金時代の定評名演を聴く、第2部―ベテラン・マエストロたちの活躍ぶりを映像でみるの2部構成で、1920年代にはじまる日本の第1次タンゴ黄金時代、1950年代からの第2次黄金時代の名演を聴くとともに、タンゴファンにとっては見逃せない映画「CAFÉ DE LOS MAESTROS」（アルゼンチンタンゴ伝説のマエストロたち----現在、東京渋谷文化村で放映中）の映画編集には入らなかった貴重な映像によるマエストロたちの演奏に堪能した夕べであった。

日本タンゴアカデミーのご協力を得まして、今回は80名を超える参加者による、これまでにない盛況な集いとなり、参加者は次回開催を待ち望まれていた。

「CAFÉ DE LOS MAESTROS」は、タンゴという芸術を生み出した偉大な巨匠（マエストロ）たちが、ブエノスアイレスのコロン劇場に一堂に会し、一夜限りの世紀のコンサートを行った、その時の奇跡のステージの映画です。

海外公演のご案内

2011年1月29、30日、「情炎～タンゴと能が織りなす源氏物語」のブエノスアイレス公演実現

当協会の正会員香坂　優女史が総合プロデュース・主演の「情炎～源氏物語」が、この度、東京都の文化助成案件として認可が下り、来年1月29、30日にブエノスアイレス市内の日本庭園内に於いて上演されるはこびとなった。

この公演は、在日アルゼンチン大使館及び[illegible]後援しているもの。

協会ホームページの活用お願い http://argentina.jp

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ（HP）の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

(1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、“ユーザー名とパスワードが必要です”との認証画面がでます。

(2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」(半角英数)を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。

(3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684
FAX: 03-3595-3932
E-mail: argentina@nifty.com

平成22年度 年会費納入のお願い

本年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日迄）の年会費のお支払が未だお済みになっていない方は、早めにお振込み戴きますようお願い申し上げます。

個人正会員：　1万円
個人賛助会員：5千円

編集長よりの御礼

アルゼンチンは、本年は建国200周年という記念の年であります。

ダニエル・D・ポルスキ駐日大使は、6年の日本在任を終え、この度、7月末にご帰国されることが決まりました。

大使に於かれましては、当協会活動に常日頃ご関心を頂き、暖かいご支援、ご高配を頂き、厚く御礼申し上げます。

尚、アルゼンチン大使館 防衛・陸・海・空軍武官アルトウーロ・ギジェルモ・マルフォート海軍大佐が7月9日母国に向け離日しました。

日本アルゼンチン協会の皆様のご協力に感謝し、またお会い出来る機会を楽しみにしていますとのご挨拶を頂いております。

執筆、原稿につきましては、中曽根悟郎様、一色田眸様、米須清文様にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、イレーナ賀集さん（当協会理事）に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報　第56号
2010年7月28日発行

発行人　木島　輝夫（当協会副会長兼理事長）
編集長　加藤　勝巳（当協会常務理事）
編集発行　社団法人　日本アルゼンチン協会
〒105-0004　東京都港区新橋1-17-1
電話：03-3501-4684
FAX：03-3595-3932
E-mail：argentina@nifty.com
URL：http://www.argentina.jp
印刷　株式会社　イデア・インスティテュート